

授業 科目名	【G】	刑法（総論）Ⅰ	区 分	開講年次	【G】2	単位数	【G】2
	【H】	刑法（総論）Ⅰ			【H】2		【H】2
	【I】	刑法（総論）Ⅰ	その他参照		【I】2		【I】2
科目区分	専門科目						
授業形態	対面開講						
担当形態	単 独	【G】 【H】 【I】					
施行規則に定める科目区分又は事項等							
サブ タイトル	犯罪論の前半部分			担当者	百花草 浩治		
授業概要	【概 要】	犯罪の一般的成立要件について概説するとともに、重要な基本判例について講義する。 なお、①予習・復習のやり方、②小テスト等の準備の仕方、③ノートの取り方等についての「授業への取り組み方」については、第1回目の講義において、詳しく説明するので、必ず出席すること。					
	【到 達 目 標】	犯罪の一般的成立要件についての議論状況に関する基本的な知識を正確に理解するとともに、重要な基本判例について批判的に考察できるようになること。					
履修条件	特になし。第1回目の講義には必ず出席すること。						
ディプロマ・ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)					
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)					
他科目との 関連性	【刑事法関係の開講科目】刑法概論を受講のうえ、刑法総論Ⅰ・Ⅱ、刑法各論Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法Ⅰ・Ⅱを受講されたい。ただし、その順序は問わない。ほかに、情報法Ⅰ、特殊講義(特別刑法Ⅰ・Ⅱ)、特殊講義(刑事政策)と講義内容において密接に関係する。						
教科書	特に指定しない。復習の際、有益なのは、和田俊憲『どこでも刑法Ⅱ総論』有斐閣、辰井聡子ほか『刑法ガイドブック(総論)』信山社、井田良『入門刑法学総論』有斐閣、松宮孝明『ハイブリッド刑法総論』法律文化社、只木誠『刑法総論』新世社、前田雅英『刑法総論講義』東京大学出版会、亀井源太郎ほか『刑法Ⅰ総論』日本評論社、高橋則夫『刑法の考え方』信山社、井田良ほか『ケーススタディ刑法』日本評論社、島伸一『たのしい刑法Ⅰ』弘文堂、成瀬幸典ほか『判例プラクティス刑法Ⅰ総論』信山社、井田良ほか『刑法総論判例インデックス』商事法務【最新の版】など						
参考書	大塚裕史ほか『基本刑法Ⅰ』『入門刑法Ⅰ』日本評論社、佐久間修ほか『刑法基本講義総論・各論』有斐閣、内田幸隆ほか『刑法総論』有斐閣、大谷實『刑法講義総論』成文堂、高橋則夫『刑法総論』成文堂、松原芳博『刑法総論』日本評論社、小池信太郎ほか『刑法総論』有斐閣、松宮孝明『口述刑法総論の基本問題』成文堂、『刑法判例百選Ⅰ』有斐閣、前田雅英ほか『最新重要判例250刑法』弘文堂、山口厚ほか『判例刑法総論』有斐閣、十河太郎ほか『刑法総論判例50!』有斐閣、前田雅英ほか『条解刑法』弘文堂など						
評価方法	小テスト[複数回実施]の合計点で評価する。						
フィードバック 方法	①小テスト実施後に、全体的な状況についての「講評」を公開する。 ②講義内容に関する質問等は随時、受け付ける。必要に応じて、講義でもそれに触れる。						
評価基準	原則として、全15回の講義において、少なくとも10回以上の「出席」を単位認定の前提とする。上記授業内容について、これをよく理解し、適切に表現できた者には、その程度に応じて「S」または「A」を与える。授業内容についての理解度や表現内容に十分ではない点がある者は、その程度に応じて「B」または「C」とし、授業内容についての理解自体が最低限度の水準に達していない者は、その程度に応じて「D」または「E」とする。小テストを全く受けていないなど評価不能な場合には「F」とする。						
その他	教科書、配布資料、最新の六法を必ず持参すること。【受講上の注意】正当な理由のない、遅刻および途中退室後の再入室は認めない。私語、携帯電話の使用は禁止する。その他授業を真摯に受けようとする意思の認められない学生については、退室を命じる場合がある。 なお、授業ごとの予習・復習時間は、各90分程度を目安としてください。 ※Gか:【選択必修(D)】 / EFか:選択						

授 業 科目名	【G】	刑法（総論） I	区 分 その他参照	開講年次	【G】 2	単位数	【G】 2
	【H】	刑法（総論） I			【H】 2		【H】 2
	【I】	刑法（総論） I			【I】 2		【I】 2
授業回数	授業内容						
1	ガイダンス、イントロダクション。講義全体を通じて、何を学ぶのかについて説明する。犯罪論を学習することの意義。 予習： 教科書全体の通読。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
2	犯罪論体系および犯罪の一般的成立要件についての概説 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
3	因果関係論① 総説 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
4	因果関係論② 重要判例 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
5	因果関係論③ 近時の学説動向 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
6	不作為犯論① 総説 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
7	不作為犯論② 重要判例 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
8	不作為犯論③ 近時の学説動向 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
9	故意と錯誤① 総説 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
10	故意と錯誤② 重要判例 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
11	故意と錯誤③ 近時の学説動向 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
12	過失犯論① 総説 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
13	過失犯論② 重要判例 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
14	過失犯論③ 近時の学説動向 予習： 教科書の該当ページ、配布資料を読む。 復習： 講義内容の確認。教科書の該当ページ、配布資料を再読する。						
15	まとめ 予習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。 復習： 教科書全体を改めて再読する。授業ノートの確認。						